
第14回 通常総会 議案書

日 時 2021年2月27日（土）13時30分～

場 所 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
岩見沢市1条西4丁目3 ☎0126-24-9901

1. 開 会
2. 理事長あいさつ
3. 議長・議事録署名人の選任
4. 議案審議
 - 第1号議案 2020年事業活動報告
 - 第2号議案 2020年活動決算報告、監査報告
 - 第3号議案 2021年事業活動計画
 - 第4号議案 2021年活動予算
 - 第5号議案 役員改選
5. 議長退任
6. 閉 会

第1号議案 2020年事業活動報告（2020年01月01日～12月31日）

設立から13周年を迎えた2020年は、新型コロナウイルス蔓延による影響で、十分な活動を展開することができませんでした。そのような制約の中でも、国の誘客多角化事業の受託など今後の展開の萌芽となるネタを積極的に取り入れるよう努力しました。以下、各事業ごとに、2020年の活動についてご報告します。

※活動計画に対する達成度：○=達成 △=途上 ×=未了

※拠点の略称： MC=岩見沢マネジメントセンター

CM=夕張石炭博物館 GC=赤平ガイダンス施設

■出版事業

×ブックレット・解説資料の刊行：

コロナの影響によって十分な活動が展開できませんでした。

しかし、2021年春に島津興業の近代化に関する冊子をブックレットシリーズの一つとして出版する予定であるほか、《炭鉄港》協議会事業でのガイドマニュアル編集にあたって吉岡理事長がその大部分を執筆しました（2021年3月発刊予定）。

■炭鉱遺産事業

×ぷらぷらまち歩きの開催：

コロナの影響によって、全て中止せざるを得なくなりました。

○奔別敷地公開の実施：

コロナの影響によって当初計画していた期間を短縮せざるを得なくなりましたが、夏休み中の6日間の公開で延べ672名が来訪しました。

一方で、9月19～21日に三笠ジオパーク推進協議会との共催で「幾奔まつり」を開催したことは、奔別の保存公開にとって画期的なできごととなりました。

■学術支援事業

△歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続：

吉岡理事長が2020/04から(株)島津興業顧問に就任したことによって、月例で北海道～鹿児島を往復する体制となり、今後の鹿児島との連携強化が期待されています。

《炭鉄港》協議会事業で、鹿児島と空知の小中学校を結ぶWEB授業が展開されました。10/29には鹿児島から北海道へ、11/09には北海道から鹿児島への授業が行われ、後者では吉岡理事長が鹿児島に向けてのガイド役を担いました。

○地域シンクタンクとしての展開

後述する誘客多角化の取り組み、模擬坑道再建への支援など、地域シンクタンクとしての機能を発揮しました。

■市民団体連携事業

△《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携：

《炭鉄港》協議会の活動に積極的に貢献するとともに、各地での講演、小中学校の授業、JR団体臨時列車への添乗など、《炭鉄港》の普及啓発に向けて取り組みを強化しました。

これらの地道な活動が評価され、1月には北海道地域文化選奨特別賞を受賞しました。

- 1月： 札幌の小中学校教員たちから炭鉄港相談
岩見沢市議会議員会研修会で講演
炭鉄港ガイド養成事業で講師
- 2月： 炭鉄港フォーラム@沼田町・小樽市で講演
東京で日本遺産プロモーションに参加
- 7月： 岩見沢市立日の出小学校児童がセンター見学
- 8月： 岩見沢市立東光中学校の事前学習に講師派遣
三笠市ジオパーク推進協の教育旅行に現地ガイド派遣（～9月）
- 9月： 岩見沢市立北真小学校のフィールドワークに協力
岩見沢市立中央小学校児童に石蔵講座としてレクチャー
岩見沢市立東光中学校のフィールドワークに協力
岩見沢市立第一小学校児童がセンター見学

10月： 奈井江中学校生徒がセンター見学
北海道中央労災病院での展示に模型貸出
JR北海道の団体臨時列車への添乗ガイド派遣

○国内外の関係者・団体への対応：

マネジメントセンターには多様な求めが寄せられ、これに積極的に対応しました。

■拠点施設事業

△そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの位置づけ・機能の見直し：

コロナの影響で、3月から5月の約3ヶ月間は休館・変則開館を余儀なくされました（03/01～03/10臨時休館、03/11～03/31土日祝休館、04/08～05/26臨時休館）。

しかし、《炭鉱の記憶》のワンストップ拠点としての認識が定着していることや、《炭鉄港》事業の遺産カード配布との連動などによって、2020年1～12月の入館者数は4,243名（2018年4,763名・2019年4,998名）となり、コロナ閉館による影響を軽微に止めることができました。

位置づけ・機能の見直しについては、コロナによる影響によって十分に検討できませんでした。ツアーの起終点や広域的事業の事務局など新たな機能の発揮を試行しているところです。

■ヘリテージツーリズム事業

△《赤平GC》《夕張CM》を起点とした広域周遊の促進：

コロナの影響により岩見沢・夕張・赤平を結ぶ広域周遊は具体化できませんでしたが、国（観光庁）の誘客多角化事業（20百万円、10/10補助）を獲得し、夕張市・美唄市・三笠市・東武トップツアーズ・空知総合振興局で、ポストコロナ時代を見据えたツーリズムのコンテンツづくりを試行しているところです。

岩見沢MCの「点」から、夕張CMの指定管理受託によって「線」に、赤平GCの業務受託によって「面」へと活動展開体制の整備を進めてきましたが、赤平GCからは9月末でカフェ・ショップ業務から撤退し2021年3月末で完全撤収を決定しました。これまで会員の皆さまには詳細を十分にご報告できずご心配をおかけしたが、その経緯を以下の通りご報告いたします。

【赤平炭鉱遺産ガイダンス施設からの撤退について】

赤平GCは空知広域トライアングルの一角として、その立ち上げから内容充実に注力してきました。開設後の赤平GCの入場者数は堅調に推移しており社会的な評価も高い状況にあります。その盛況の根底には、NPOとTANtanが協働した10年近くにわたる市民活動があるからです。そのような経緯から、2018年7月の開業から赤平市に依頼され、カフェ・ショップの運営とガイド補助を行ってきました。

そもそも赤平GCは、国の地域創生補助金によって建設されたものですが、当該補助金の前提として、地域での経済的な動きを活性化することが要件となっています。これを具体化する機動的な活動が行政では不可能であるとして、赤平市がNPOに協力を求めてきたものです。

NPOとしても、岩見沢MCだけではなく、岩見沢・夕張CM・赤平GCの3点をネットワークする、「点から面へ」という戦略的発想により、独自の知見を発揮して相当の経営資源を投入してきました。

しかし、2020年度に入って市担当者の異動があり、当初の経緯であった「行政の足らざる部分をNPOが補う」という基本となる協調的な関係性が放棄され、施設管理の一端をNPOに代行させるような姿勢が随所に見られるようになってきました。

特に、契約に明記されていない年間200日の受付業務の履行（＝そもそもは行政側の予算積算上の数値）を市担当者が求めてきたことを発端に、双方の認識の相違が明らかになり、当NPOとしては次の通り主張しました。

- ①市から依頼があった当初の共通理解として、NPOの主業務は補助金支給の前提となっている経済活動を生むカフェ・ショップであり、受付業務は行政が雇用する地域おこし協力隊の足らない部分を補完する従属業務であるという、相互信頼による前提が崩壊している。
- ②請負契約を結びながら単に人員充足のための市職員の指揮下で業務を行うのは、偽装請負として指摘される恐れが大きい。
- ③カフェ・売店はNPOが勝手にやっているという程度の従属的な業務であるという認識は看過できない。

市の求める200日の受付専任業務の人工を確保し、さらに付加的にカフェ・売店の運営を行うための追加的な人員を配置することは、NPOとしての採算性を確保できないことから、このままではカフェ・売店を撤退せざるを得ないことを、7月からの交渉の過程で何度となく予告した上で、突如浮上してきた200日の受付業務の根拠や、偽装請負の指摘を回避するための権限・役割分担の明確化について、市の方針を文書によって示すよう求めましたが、明確な返答が得られませんでした。そのため止むを得ず、交渉の経緯の中で再三事前予告してきた通り、9月30日をもってカフェ・売店から撤退せざるを得ないと決断しました。

《炭鉄港》の重要拠点として、当NPOとしても相当の労力を投入してきた経緯から残念な結果となりました。交渉の経緯から、当該施設成立の根底にある10年にわたる市民活動が看過されていることははなはだ遺憾であり、当該施設の戦略的意義や理念が全く見受けられないことは勿体ない限りであると考えています。3月末の契約終了をもって当該施設からは全面撤退し、今後は市の成果と動向を注視して参ります。

△鹿児島との相互交流事業：

コロナによって、2020年10月に予定していたAIR-DOチャーター便によって鹿児島と北海道を相互送客する計画は延期せざるを得なくなりましたが、2021年10月に実施する方向で予算確保など継続的に準備を進めているところです。

これに代わる取り組みとして、〔学術支援事業〕で前述した通り、北海道と鹿児島の小中学生とのWEB事業を行いました。

■石炭博物館事業

△指定管理業務の着実な実施：

2020年4月から吉岡理事長が札幌国際大学教授を辞して館長として常時駐在するとともに、役員が交代で現場勤務を担当するなど、指定管理業務を着実に実施する体制を強化しました。

コロナの影響によって、2020年シーズンの開館を04/24から06/04に延期せざるを得なくなりましたが、環境整備や取り組みの強化によって、有料入館者数は10,277名と1万人を超えることができました。

○博物館の質的充実に向けた展開

リニューアルのコンセプトとして「常に変わり続ける博物館」を標ぼうしながら、人材を得なかったことや管理体制の不備から2シーズンの間全く変化が見られなかったことを踏まえて、2020年シーズンには約200項目にわたる新規の改善取り組みを行いました。その結果、顧客満足度の向上と底堅い評価の定着が図られるとともに、設置者からも評価されました。

一時険悪であった市教委との関係も、2019年10月の人事異動を契機に良好な関係が構築され、模擬坑道の再生に向けて市教委に協力するとともに、設置者と共同で地下展示扇風機の改修を実現（2021年3月稼働予定）するなど、具体的な成果を上げつつあります。

■会務

△会員サービスの充実：

2月の会員交流会開催、石炭博物館優待券配布など、会員サービスの向上に努めました。

×企業賛助会員の拡大

コロナの影響で新規会員の募集は進みませんでした。《炭鉄港》構成資産の一翼を担っている小林酒造(株)に入会頂けたことは大きな意義があります。

△新たな経営戦略と運営体制の検討

コロナによる影響や赤平GCでの環境変化によって、今後の動向に不透明感があることから、成案を得るまでに至りませんでした。夕張CMの模擬坑再建の進捗や、《炭鉄港》日本遺産後の見通しを踏まえて、引き続き継続的に検討を進めます。

○会員数：

〔2020年12月末〕総数=339名（昨年末351名）、運営会員=52名（同55名）、一般会員=263名（同273名）、賛助会員=24社団体（同23社）、〔動静〕入会=16名（同35名）、退会=会費滞納整理21名+26名（同20名）、種別変更=0名（同1名）

第2号議案 2020年度活動決算報告、監査報告

2020年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録

2020年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	48,791	
普通預金 北洋銀行	4,042,383	
普通預金 北洋銀行 [石博]	2,249,634	
普通預金 空知信用金庫	18,807,613	
普通預金 北海道労働金庫	7,349	
普通預金 ゆうちょ銀行	0	
郵便振替口座	479,597	
現金・預金小計	25,635,367	
売掛金	0	
棚卸資産 [販売用書籍]	352,250	
前払費用 [家賃、誘客多角化]	1,619,708	
立替金 [模擬坑道電力料]	188,604	
仮払金 [消費税中間納付]	574,600	
流動資産合計		28,370,529
2 固定資産		
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,078,633	
有形固定資産小計	503,389	
敷 金	50,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計		603,389
資産合計		28,973,918
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,740,038	
前受金 [誘客多角化]	25,000	
短期借入金 [誘客多角化]	20,000,000	
流動負債合計		21,765,038
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		21,765,038
III 正味財産の部		
正味財産合計		7,208,880

2020年 その他事業会計 財産目録

2020年12月31日現在

該当事項なし

2020年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2020年12月31日現在

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	48,791	
普通預金 北洋銀行	4,042,383	
普通預金 北洋銀行 [石博]	2,249,634	
普通預金 空知信用金庫	18,807,613	
普通預金 北海道労働金庫	7,349	
普通預金 ゆうちょ銀行	0	
郵便振替口座	479,597	
現金・預金小計	25,635,367	
売掛金	0	
棚卸資産 [販売用書籍]	352,250	
前払費用 [家賃、誘客多角化]	1,619,708	
立替金 [模擬坑道電力料]	188,604	
仮払金 [消費税中間納付]	574,600	
流動資産合計		28,370,529
2 固定資産		
工具器具備品	1,582,022	
減価償却累計額	△ 1,078,633	
有形固定資産小計	503,389	
敷 金	50,000	
出資金 [空知信用金庫]	50,000	
投資その他の資産小計	100,000	
固定資産合計		603,389
資産合計		28,973,918
II 負債の部		
1 流動負債		
未払金	1,740,038	
前受金 [誘客多角化]	25,000	
短期借入金 [誘客多角化]	20,000,000	
流動負債合計		21,765,038
2 固定負債	0	
固定負債合計		0
負債合計		21,765,038
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産		7,039,259
2 当期正味財産増加額		169,621
正味財産合計		7,208,880
負債および正味財産		28,973,918

2020年 その他事業会計 貸借対照表

2020年12月31日現在

該当事項なし

2020年 特定非営利活動に係る事業会計 活動計算書

2020年1月1日～2020年12月31日

単位：円

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
受取会費		1,980,000
2. 受取寄付金		
受取寄付金		148,099
3. 事業収益		
商品・書籍・飲食販売	2,297,782	
ガイドツアー	328,420	
業務受託	2,024,292	
指定管理	10,791,500	
入館料	7,165,010	
受託調査	2,829,900	
その他	387,903	25,824,807
4. 助成金		0
5. 補助金		
道空知総合振興局		1,300,000
6. その他収益		
受取利息	58	
雑収益 [国持続化交付金他]	2,707,300	2,707,358
経常収益合計		<u>31,960,264</u>
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	11,961,983	
法定福利費	1,240,070	
雑給	717,122	
人件費計	13,919,175	
(2)その他経費		
売上原価	1,763,647	
謝金	2,599,492	
通信費	533,336	
光熱用水費	3,976,735	
旅費交通費	564,095	
旅費日当	210,000	
広告宣伝費	37,995	
交際費	18,278	
会議費	137,188	
消耗品費	1,721,130	
図書費	81,298	
印刷費	363,979	
修繕費	145,190	
地代家賃	250,000	
保険料	288,434	
委託料	962,040	

	租税公課	9,650		
	諸会費	171,500		
	賃借料	1,678,550		
	支払手数料	64,710		
	職員研修費	0		
	雑費	323,874		
	支払利息	17,099		
	その他経費計	15,918,220		
	事業費合計		29,837,395	
2.	管理費			
	(1)人件費			
	給料手当	300,000		
	役員報酬	360,000		
	人件費計	660,000		
	(2)その他経費			
	旅費交通費	56,100		
	会議費	4,500		
	租税公課	1,141,800		
	減価償却費	322,274		
	その他経費計	1,524,674		
	管理費合計		2,184,674	
	経常費用合計			32,022,069
III	経常外損益			
	経常外収益			
	受取保険金		455,026	455,026
	当期正味財産増加額			393,221
	法人税・住民税・事業税		223,600	223,600
	前期繰越正味財産額			7,039,259
	当期正味財産合計			7,208,880

2020年その他事業会計 活動計算書

2020年1月1日～2020年12月31日

該当事項なし

監査報告書

2021年01月26日

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

理事長 吉岡宏高 様

特定非営利活動法人 炭鉱の記憶推進事業団

監事 熊谷隆文

監事 加藤愉朗

2020年01月01日から2020年12月31日までの2020年（第14期）における、会計および業務の監査の結果について、下記の通り報告いたします。

監査意見

1. 財産目録、貸借対照表および活動計算書は、会計帳簿の記載と一致し、特定非営利活動法人の損益および財務の状況を、正しく示しているものと認めます。
2. 事業報告書の内容は、真実であると認めます。
3. 理事の職務執行に関する不正の行為または法令・定款に違反する重大な事実はないと認めます。

以 上

■出版事業

- ブックレットの発刊
- 関連資料の制作・公開

■炭鉱遺産事業

- コロナ下に対応した新たな形のぷらぷらまち歩きの試行
- 奔別立坑周辺の利活用に向けた取り組み

■学術支援事業

- 歴史的経緯を踏まえた鹿児島との交流継続
- 地域シンクタンクとしての展開
- 教育機関との連携

■市民団体連携事業

- 《炭鉄港》などを通じた他管内の機関・団体との連携
- 国内外の関係者・団体への対応

■拠点施設事業

- そらち炭鉱の記憶マネジメントセンターの質的充実
- 会員による運営支援の試行

■ヘリテージツーリズム事業

- 誘客多角化事業
- 鹿児島との相互交流事業

■石炭博物館事業

- 指定管理業務の着実な実施
- 博物館の質的充実に向けた展開
- 模擬坑道再建に向けた支援

■会務

- 会員サービスの実施
- 企業賛助会員の拡大
- 新たな経営戦略と運営体制の検討

第4号議案 2021年度活動予算

2021年 特定非営利活動に係る事業会計 活動予算書

2021年1月1日～2021年12月31日

科 目	金 額 (円)	主要な細項目 (千円)
I 経常収益		
1. 受取会費	2,500,000	運営500、一般800、賛助1,200
2. 受取寄付金	200,000	
3. 事業収益	24,700,000	受託調査3,000、MC・書籍1,700、CM20,000
4. 助成金	0	
5. 補助金	20,000,000	国誘客多角化事業
6. 受取利息	500	
7. その他事業からの繰入金	0	
経常収益合計	47,400,500	
II 経常費用		
1. 事業費		
人件費	13,000,000	MC3,500、CM9,500
経費 出版事業	400,000	仕入書籍売上原価50、出版原価350
遺産保全活用事業	200,000	
学術支援事業	1,000,000	受託調査売上原価1,000
市民団体連携事業	300,000	MC原価150、市民活動支援150
拠点施設運営事業	1,800,000	光熱用水費など経常経費
ハテナジ ツーリズム事業	20,000,000	誘客多角化事業
石炭博物館事業	9,000,000	
事業費小計	45,700,000	
2. 管理費		
人件費	300,000	事務局長手当300
その他経費	1,300,000	会議旅費100、消費税850、事務委託350
管理費小計	1,600,000	
経常費用合計	47,300,000	
法人税・住民税・事業税	100,000	
当期正味財産増加額	500	
前期繰越正味財産額	7,208,880	
当期正味財産合計	7,209,380	

2021年その他事業会計 収支予算書

2021年1月1日～2021年12月31日

該当事項なし

第5号議案**役員改選**（任期：2021年02月27日～2023年2月開催の定期総会終了時）

■候補者

- 【理事】** 吉岡 宏高（重任）
・現理事長、(株)島津興業顧問、札幌市在住・三笠市出身
- 大橋 二郎（重任）
・現副理事長、芦別市議会議員、芦別市在住
- 植村 真美（重任）
・現副理事長、北海道議会議員、赤平市在住
- 酒井 裕司（重任）
・現常務理事、イメージランドスケーププランニング代表、札幌市在住
- 平野 義文（重任）
・現理事、(株)ハイテコス、岩見沢市議会議員、岩見沢市在住
- 石川 成昭（重任）
・現理事、日本データサービス(株)、土木学会道支部土木遺産選考委員、札幌市在住
- 仲嶋 憲一（重任）
・(一社)室蘭観光協会事務局長、登別市在住
- 熊谷 隆文（新任）
・現監事、学芸員・元石炭博物館館長、夕張市出身・在住
- 上遠野 敏（新任）
・元札幌市立大学デザイン学部教授、札幌市在住（三笠市にアトリエ）
- 北口 博美（新任）
・現事務局長、岩見沢市在住
- 【監事】** 加藤 愉朗（重任）
・現監事、植村建設(株)、赤平在住
- 三上 秀雄（新任）
・元理事、コミュニティーガイドクラブTANtan代表、赤平市在住